

suiteDXT

使用説明書

NeoSoft, LLC

The logo for NeoSoft, LLC. The word "NEO" is written in a bold, cyan-colored sans-serif font. The word "SOFT" is written in a grey-colored sans-serif font, positioned to the right of "NEO".

NEOSOFT

NS-03-043-0004-JA 改訂 2

Copyright 2023 NeoSoft, LLC

All rights reserved (無断複写・複製・転載禁止)

改訂履歴

改訂版	改訂日	変更内容	安全関連の更新 (はい/いいえ)
1	2022年7月15日	5.1.0 製品リリース向けに更新。ブラジル・ポルトガル語が追加されました。 この IFU は、前の言語/改訂/部品番号と置き換わります： suiteDXT IFU - NS-03-039-0008, EN-Rev. 7 suiteDXT IFU - NS-03-039-0009, FR-Rev. 6 suiteDXT IFU - NS-03-039-0010, DE-Rev. 6 suiteDXT IFU - NS-03-039-0011, IT-Rev. 6 suiteDXT IFU - NS-03-039-0012, EL-Rev. 6 suiteDXT IFU - NS-03-040-0009, LT - Rev. 5 suiteDXT IFU - NS-03-040-0010, ES - Rev. 5 suiteDXT IFU - NS-03-040-0011, SV - Rev. 5 suiteDXT IFU - NS-03-040-0012, TR - Rev. 5 suiteDXT IFU - NS-03-040-0013, RO - Rev. 5 suiteDXT IFU - NS-03-040-0014, NL - Rev. 5 suiteDXT IFU - NS-03-040-0029, PT-PT - Rev. 4 suiteDXT IFU - NS-03-041-0008, ZH-CN - Rev. 2 suiteDXT IFU - NS-03-041-0010, HU - Rev. 3 suiteDXT IFU - NS-03-042-0008, JA - Rev. 1 suiteDXT IFU - NS-03-042-0009, VI - Rev. 1	いいえ
2	2023年4月21日	5.1.1 製品リリース向けに更新。エストニアが追加されました。規制に関する情報は、規制に関する文書の附録に移されました。	いいえ



NeoSoft, LLC
N27 W23910A Paul Road
Pewaukee, WI 53072 USA

電話 : 262-522-6120
Website: www.neosoftllc.com

営業 : orders@neosoftmedical.com
サービス : service@neosoftmedical.com

アプリケーション起動後にコンプライアンス情報（正規代理店、輸入者、登録情報）を表示するには、メイン画面から「ヘルプ」または「アプリケーション情報」をクリックしてください。規制に関する情報を選択してください。文書は pdf ビューアーで表示されます。

目次

安全性について	1
はじめに	1
使用目的	1
適応	1
サポートされている DICOM 画像形式	1
用語	2
装置・機器の危害要因	2
サイバーセキュリティ	3
はじめに	5
メイン画面の機能	5
スタディペインの右マウスクリックメニュー	6
シリーズペインの右マウスクリックメニュー	7
問合せ/検索ウィンドウ	7
問合せ/結果ペインの右マウスクリックメニュー	8
シリーズペインの右マウスクリックメニュー	8
suiteDXT の使用	9
アプリケーションの起動	9
リモートホストからスタディまたはシリーズを検索	10
以前のスタディの自動検索	12
リモートホストにスタディを送信	14
リモートホストにシリーズを送信	14
スタディペインのインジケータ	15
NeoSoft DICOM ファイルの送信	15
スタディのインポート	15
スタディのエクスポート	16
検索の実行	17
フォルダの作成	17
スタディの匿名化	18
削除保護	19
スタディの削除	19
シリーズの削除	20
セカンダリキャプチャシリーズの削除	20
suiteDXT の概要	21
スタディの前処理	22
前処理の構成	22
前処理の使用	23
スタディペインのインジケータ	24
Virtual Fellow®	25
Virtual Fellow® のオン/オフ	25
画像プレビューウィンドウ	26
データエクスポート	27
サービスとサポート	29
DICOM ネットワーク機能不全	29
スタディ起動エラー	30
お問い合わせ	30

安全性について

はじめに

効率的かつ安全にご使用いただくために、本ソフトウェアをご使用になる前に必ずこの安全性に関するセクションおよび関連するトピックをすべて読んでください。この製品をご使用になる前に、必ず本書の内容をよく読んで理解してください。また、手順と安全に関する注意事項は定期的に確認してください。

このソフトウェアは、トレーニングを受け、資格を持つ担当者だけが操作することを前提としています。

suiteDXT ソフトウェアの予想耐用期間は、最初のリリース日から7年です。

使用目的

suiteDXT は、ユーザーが DICOM ネットワーク通信の管理、サポートされている DICOM 画像の格納、サポートされている DICOM 画像のローカルファイルシステムからのインポート、スタディの匿名化、関連のある画像アプリケーションの起動を実行できるよう意図されています。このソフトウェアは、一時的なストレージ場所として設計されています。

適応

suiteDXT は、ユーザーが DICOM 画像をインポート、エクスポート、匿名化して、関連のある画像アプリケーションを起動できるよう意図されています。この製品には、診断用の医療機能または目的はありません。

サポートされている DICOM 画像形式




suiteDXT は、MR および拡張 MR の DICOM 形式をサポートしています。

注：suiteDXT は JPEG ロスレス圧縮をサポートしますが、この形式のサブセットはサポートされていません。サポートされている形式の詳細については、suiteDXT DICOM 適合声明書マニュアルを参照してください。

用語

本取扱説明書では、危険、警告、注意の用語で危険を指摘し、危害の程度やレベルを示しています。危険は、人が負傷する可能性をもたらすものと定義されます。次の表に記載された用語の説明をよく理解しておいてください。

表 1: 安全性に関する用語

マーク	定義
 危険:	「危険」は、説明どおりに操作を行わなかった場合に、人体への重大な傷害、死亡、または建物や機器の破損を <u>引き起こす特定の危険要因が確認されている状況</u> やアクションを表すために使用されます。
 警告:	「警告」は、説明どおりに操作を行わなかった場合に、人体への重大な傷害、死亡、または建物や機器の破損を <u>引き起こす可能性のある特定の危険要因が確認されている状況</u> やアクションを表すために使用されます。
 注意:	「注意」は、説明どおりに操作を行わなかった場合に、人体への軽度の傷害、または建物や機器などの軽度の破損を <u>引き起こすことがある危険要因が潜在する状況</u> やアクションを表すために使用されます。

装置・機器の危害要因



注意: 損傷したり、何らかの欠陥がある機器を使用すると、診断の遅延により患者がリスクにさらされる可能性があります。装置が適切に運転できる状態であることを必ず確認してください。



注意: アプリケーションは、1 つまたは複数のハードディスクを有する装置上で動作します。ハードディスクには患者の健康に関する情報が保存されている場合があります。国によっては、個人情報処理および配布に関する法律によって、そのような装置は規制の対象になる場合があります。個人データの開示は、該当する監督官庁によって、法的措置が取られる場合があります。患者ファイルへのアクセスは必ず保護してください。ユーザーには、患者情報を規制する法律を理解しておく責任があります。

サイバーセキュリティ

NeoSoftは、ソフトウェアの設計と実装において、以下のサイバーセキュリティ上の予防措置を講じています。

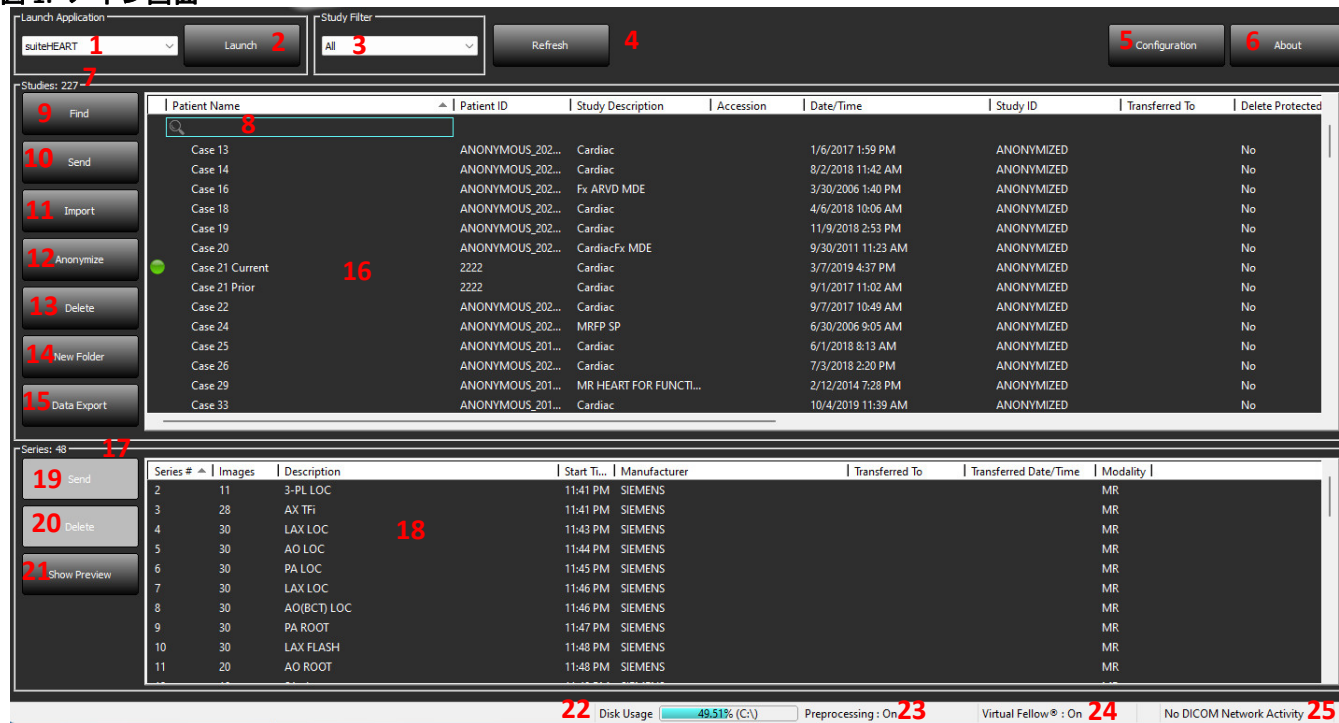
- NeoSoftソフトウェアの特定の機能(ユーザー権限、データベースの再構築など)の管理は、訓練を受けた管理者ユーザーのみが行うことができます。
- NeoSoftソフトウェアは、NISTデータベースに収録されている既知の脆弱性を定期的に分析し、必要に応じてパッチを適用します。
- NeoSoftソフトウェアは、DICOM規格を使用して患者データを保存し、ユーザーが設定したポートを介したネットワーク経由で患者データを送受信します。
- インストールする前のNeoSoftソフトウェアの完全性をmd5チェックサムで検証し、提供されたソフトウェアに破損がないことを確認します。
- NeoSoftソフトウェアは、暗号化を有効にしたハードウェアでの使用を検証しています。
- NeoSoftは、ISO 14971規格に準拠した設計により、サイバーセキュリティのリスクを軽減しています。
- NeoSoftの従業員は、サイバーセキュリティおよび健康情報の保護に関するトレーニングを受けています。
- NeoSoftは、トラブルシューティングのためにお客様から特別にアクセスを許可された場合を除き、保護された健康情報を受け取ることも、管理することはありません。
- NeoSoftソフトウェアは、ペネトレーションテストを受けています。
- 自動ログオフ (ALOF) - suiteHEARTは、所定の不使用時間が経過すると閉じるように設定できます。 suiteDXTは、ユーザーが閉じるか、システムを再起動するまで開いたままです。
- 監査管理 (AUDT) - suiteHEARTとsuiteDXTは、ソフトウェアイベントとユーザー情報を含むタイムスタンプ付きのログを生成します。
- 権限付与 (AUTH) - suiteDXTでは、管理者は他のユーザーのアクセス制御を表示し設定できます。アクセスの設定方法に応じて、ユーザーは、suiteDXTとsuiteHEARTの特定のスタディのみを閲覧できます。例えば、ユーザー Aは場所Aのスタディ情報のみ、ユーザー Bは場所Aと場所Bのスタディ情報に、それぞれアクセスできるように設定できます。
- ノード認証 (NAUT) - suiteDXTは、AEタイトル、IPアドレス、DICOMポートを設定することにより、他のDICOM機器と通信するように設定できます。デフォルト設定のsuiteHEARTはネットワークを利用しませんが、設定を変更することによりAEタイトル、IPアドレス、ポートで他のシステムを識別し、データを送信できます。両製品とも、ネットワーク経由でスタディデータを送受信する代わりに、ファイルシステムからローカルのスタディデータをインポートすることで、ネットワークに接続せずに使用できます。
- 個人認証 (PAUT) - suiteHEARTとsuiteDXTは、ユーザー認証、ユーザーパスワード制御を有効にし、ログインしたユーザーごとに利用可能な患者データを設定できます。ユーザー情報を記録します。
- 接続機能 (CONN) - suiteDXTは、データ転送用に設定された他のDICOMパートナーに接続できます。suiteHEARTは、設定を変更することで、AEタイトル、IPアドレス、ポートで識別した他システムにデータを送信できます。
- 物理ロック (PLOCK) - 該当なし。NeoSoftは、保護のために、ネットワークセキュリティ製品を使用することを推奨します。
- システムとアプリケーションの強化 (SAHD) - 該当なし。NeoSoftは、保護のために、ネットワークセキュリティ製品を使用することを推奨します。
- 健康データの匿名化 (DIDT) - suiteDXTには、患者のスタディを特定できないようにする「匿名化」機能があります。
- 健康データの完全性と信頼性 (IGAU) - suiteDXTでは、スタディ情報のインポート/転送時に表示されるステータスメッセージでインポートや転送の成功やエラーの発生を確認できます。suiteHEARTでは、入力データに欠落や破損がある場合、ポップアップメッセージでユーザーに警告します。
- データバックアップとディザスタリカバリ (DTBK) - suiteHEARTで作成したデータは、長期保存/バックアップのためにPACSに送信することを推奨します。suiteDXTは、ローカルソフトウェアが破損した場合にデータベースを再構築するツールを備えています。
- 健康データ保管の機密性 (STCF) - 有資格者が使用することを意図しているsuiteHEARTとsuiteDXTは、ユーザーの裁量により、ユーザー名とパスワードで保護できます。
- 転送の機密性 (TXCF) - データの転送はすべてDICOM形式で行われます。
- 転送の完全性 (TXIG) - データの転送はすべてDICOM形式で行われます。

- サイバーセキュリティ製品のアップグレード (CSUP) - インストールやアップグレードは、お客様の裁量で許可され適用される新しいソフトウェアリリースの形で行われます。
- ソフトウェア部品表 (SBOM) - suiteHEARTの「About (概要)」画面には、サードパーティ製ソフトウェアの一覧が表示されます。suiteDXTのサードパーティ製ソフトウェアの情報は、suiteDXTのインストールディレクトリの「3pInfo」フォルダにあります。
- デバイスのライフサイクルにおけるサードパーティ製コンポーネントのロードマップ (RDMP) - NeoSoftはサードパーティ製ソフトウェアを定期的に評価し、必要に応じてsuiteHEARTおよび/またはsuiteDXTを更新する場合があります。
- セキュリティガイダンス (SGUD) - NeoSoftは、ウイルス対策ソフトウェアの使用を推奨します。
- ネットワークセキュリティ機能 (CNFS) - ユーザーのニーズに基づいてネットワークセキュリティ機能を構成する機能 - suiteHEARTとsuiteDXTはどちらもネットワークに接続せずに使用できます。ただし、ネットワーク転送を行うように設定した場合は、AEタイトル、IPアドレス、ポートの情報のみを必要とします。これ以上のセキュリティは必要なく、また、推奨しません。
- 緊急アクセス (EMRG) - 該当なし。suiteHEARTとsuiteDXTは、緊急事態発生時に使用するものではありません。
- リモートサービス (RMOT) - お客様が指定したリモートアクセス方法 (リモートデスクトップ等) を使用して遠隔でサービスを実行できます。suiteHEARTとsuiteDXTは、リモートアクセスの手段そのものは備えていません。
- マルウェア検知/保護 (MLDP) - 該当なし。suiteHEARTとsuiteDXTは、マルウェア検出機能またはマルウェアからの保護機能を備えていません。NeoSoftは、保護のために、ネットワークセキュリティ製品を使用することを推奨します。

はじめに

メイン画面の機能

図 1. メイン画面

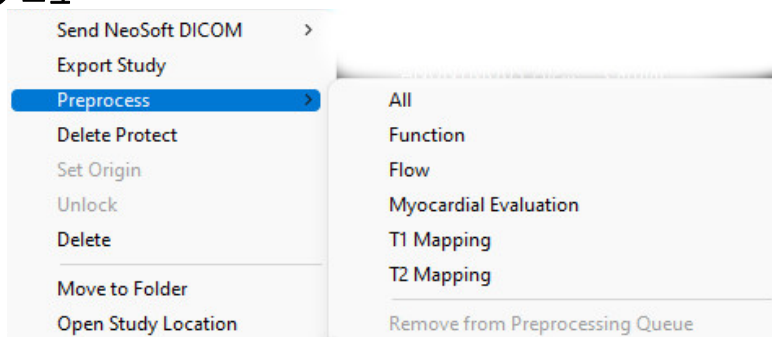


1. **Launch Application (アプリケーション起動)** プルダウンメニュー - 構成済みのアプリケーションが列記されます。
2. **Launch (起動)** - 構成済みの NeoSoft, LLC アプリケーションを起動します。
3. **Study Filter (スタディフィルタ)** - スタディリストでスタディを表示する日付範囲を定義します。
4. **Refresh (更新)** - ユーザーの選択した基準に基づいてビューを更新します。
5. **Configuration (構成)** - 構成ウィンドウを開きます。
6. **About(説明)** - suiteDXTのソフトウェアバージョンおよび、使用説明、DICOM 適合宣言、規制に関する情報、サポート用アーカイブログファイルへのリンクを表示します。
7. **Studies Headline (スタディ見出し)** - ローカルホストに格納されているスタディ数を表示します。
8. **Search Field (検索フィールド)** - 並べ替えあり、または並べ替えなしで列を自動的に検索します。
9. **Find (検索)** - [Query/Retrieve (問合せ/検索)] ウィンドウが開きます。
10. **Send (送信)** - ローカルスタディをリモートホストにプッシュします。(リモートホストの設定については、インストール マニュアルを参照してください。)
11. **Import (インポート)** - スタディ情報をファイルシステム、CD、DVD、またはUSB メディアからインポートできます。
12. **Anonymize (匿名化)** - 患者固有のデータを削除して新しいスタディを作成します。
13. **Delete (削除)** - suiteDXT スタディリストからスタディを削除し、ローカルホストから DICOM データを削除します。
14. **New Folder (新しいフォルダ)** - スタディを整理できるようにフォルダを作成します。

15. **Data Export (データのエキスポート)** - エクセルシートとして、結果のバッチのエキスポート。
16. **Study (スタディ) ペイン** - ローカルホストに格納されているスタディの情報が表示されます。
 - 列のタイトルは、クリックしてドラッグすると順序を変更できます。また、列のタイトルをクリックすると並べ替えられます。
17. **Series Headline (シリーズ見出し)** - 選択したスタディのシリーズ数を表示します。
18. **Series (シリーズ) ペイン** - 選択したスタディのシリーズ情報を表示します。
 - 列のタイトルは、クリックしてドラッグすると順序を変更できます。また、列のタイトルをクリックすると並べ替えられます。
19. **Send (送信)** - ローカルシリーズをリモートホストにプッシュします。(リモートホストの設定については、インストールマニュアルを参照してください。)
20. **Delete (削除)** - 選択したスタディからシリーズを削除し、DICOM データを削除します。
21. **Show Preview (プレビューの表示)** - suiteHEART Virtual Fellow[®]、CAS シネ、CAS レポートシリーズのプレビューを表示します。
22. **Disk Usage Indicator (ディスク使用率インジケータ)** - 画像データの合計ローカルディスク使用領域をパーセンテージで示します。
23. **Preprocessing Status (前処理のステータス)** - 前処理の現在の構成ステータス (オン/オフ) を示します。
24. **Virtual Fellow[®] Status Indicator (Virtual Fellow[®] ステータスインジケータ)** - Virtual Fellow[®] の現在の構成ステータス (オン/オフ) を示します。
25. **Network Status (ネットワークのステータス)** - suiteDXT が現在、DICOM データをネットワーク上で転送しているかどうかを示します。

スタディペインの右マウスクリックメニュー

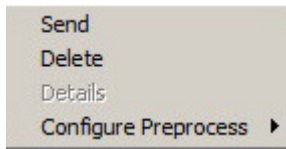
図 2. 右マウスクリックメニュー



- **Send NeoSoft DICOM (NeoSoft DICOM を送信)** - ソフトウェアによって作成されたファイルのみを、ローカルホストからリモートホストにプッシュします。
- **Export Study (スタディのエキスポート)** - 選択したスタディグループのスタディデータを圧縮 .zip ファイルに保存します。
- **Preprocess (前処理)** - 構成されたシリーズすべて、または機能、血流、心筋評価、T1 マッピングおよび T2 マッピングのみを前処理します。キューからスタディを削除するには、[Remove from Preprocessing Queue (前処理キューから削除)] を選択します。
- **Delete Protect (プロテクトの削除)** - スタディのプロテクト削除を設定します (はい/いいえ)。
- **Set Origin (起点の設定)** - ネットワーク管理者がアクセス管理向けに AE タイトルを設定するために使用します。
- **Unlock (ロック解除)** - ロックをリセットし、不測のシャットダウン後にロックされたスタディを開きます。
- **Delete (削除)** - suiteDXT スタディリストからスタディを削除し、ローカルホストから DICOM データを削除します。
- **Move to Folder (フォルダに移動)** - 作成したフォルダにスタディを動かします。
- **Open Study Location (スタディの場所を開く)** - ローカルファイルシステムで DICOM データの場所を示します。

前処理は NeoSoft CAKE™ アプリケーションには適用されません。

シリーズペインの右マウスクリックメニュー

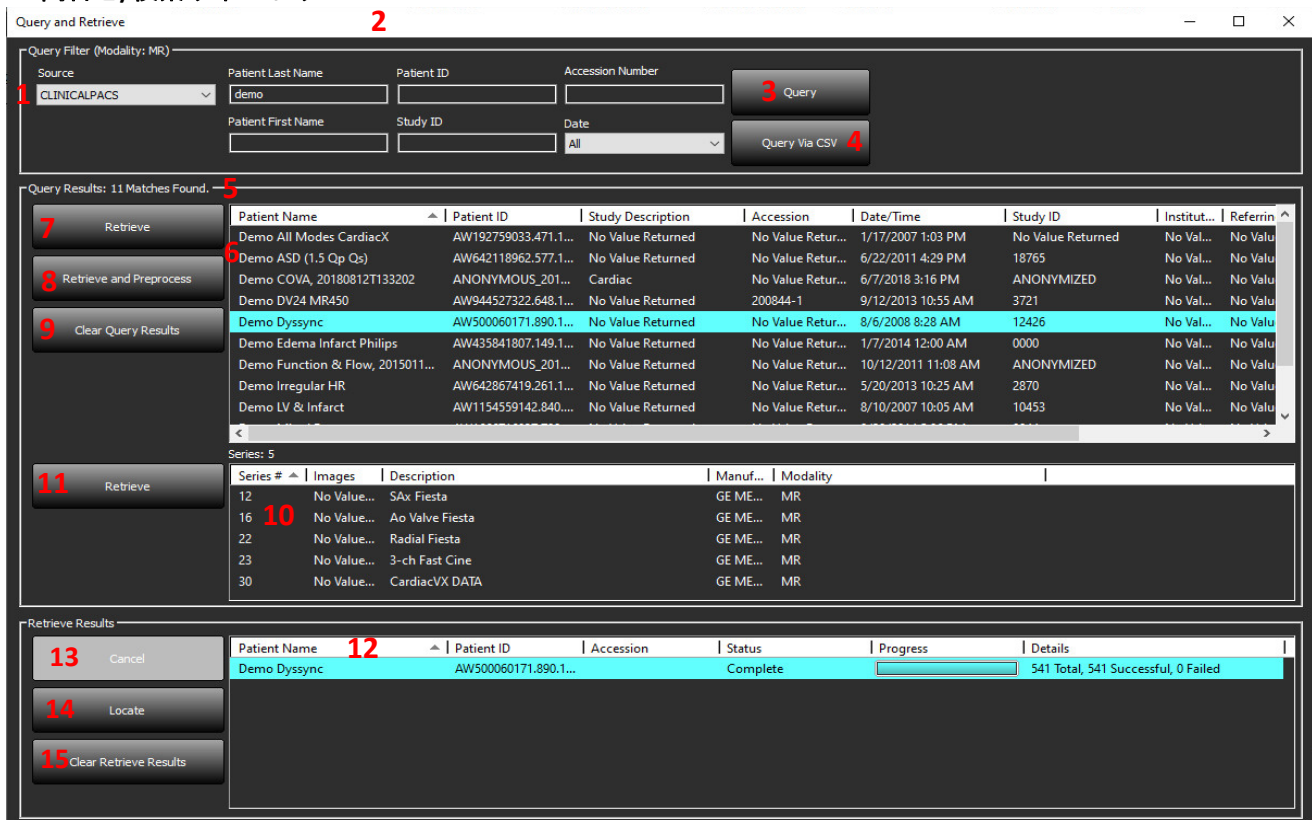


- **Send (送信)** - ローカルシリーズをリモートホストにプッシュします。
- **Delete (削除)** - 選択したスタディからシリーズを削除し、DICOM データを削除します。
- **Details (詳細)** - シリーズの詳細ウィンドウが開きます。
- **Configure Preprocess (前処理の構成)** - 機能、血流、心筋評価、T1 マッピングおよび T2 マッピングシリーズのシリーズ名を自動入力します。

前処理の構成は NeoSoft CAKE™ アプリケーションには適用されません。

問合せ/検索ウィンドウ

図 3. 問合せ/検索ウィンドウ



1. **Query Source (問合せソース) プルダウンメニュー** - 問合せ/検索で使用できる構成済みのリモートデバイスを表示します。
2. **Query Filter (問合せフィルタ)** - 患者の名、姓、患者 ID、スタディ ID、登録番号、日付で具体的なスタディを検索するために使用できます。* (アスタリスク) は任意のフィールドでワイルドカードとして使用できます (日付以外)。
3. **Query (問合せ)** - リモートデバイスの問合せを実行します。あらゆるフィールドを空白のままにすると、問合せであらゆる結果が返されます。
4. **Query Via CSV (CSV を介した問合せ)** - 事前定義された CSV ファイルを使用してリモートデバイスの問合せを処理します。
5. **Query Results (問合せ結果)** - 問合せ基準に一致するスタディ数を示します。

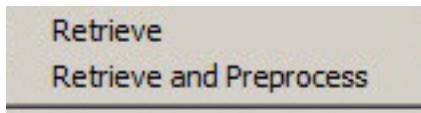
6. **Query Results (問合せ結果) ペイン** - 問合せのあったリモートデバイスのスタディ情報を表示します。
 - 列のタイトルは、クリックしてドラッグすると順序を変更できます。また、列のタイトルをクリックすると並び替えられます。
7. **Retrieve (検索)** - リモートデバイスから選択したスタディの検索を実行します。
8. **Retrieve and Preprocess (検索と前処理)** - リモートデバイスから選択したスタディの検索と前処理を実行します。
9. **Clear Query Results (問合せ結果のクリア)** - スタディペインで問合せの結果をクリアします。
10. **Series (シリーズ) ペイン** - スタディペインでハイライトされたスタディのシリーズ情報を表示します。
 - 列のタイトルは、クリックしてドラッグすると順序を変更できます。また、列のタイトルをクリックすると並び替えられます。
11. **Retrieve (検索)** - リモートデバイスから選択したシリーズの検索を行います。
12. **Transfer Status (転送ステータス) ペイン** - 現在の検索と完了した検索を表示します。
 - 列のタイトルは、クリックしてドラッグすると順序を変更できます。
13. **Cancel (キャンセル)** - 転送を停止します。
14. **Locate (見つける)** - メイン UI スタディペインの検索されたスタディを強調表示します。
15. **Clear Retrieve Results (検索結果をクリア)** - 転送が完了したスタディの転送ペインで転送アクティビティをクリアします。



注意: 転送した画像はローカルのまま残り、suiteDXT メイン画面で表示されます。ただし、スタディの画像がすべて転送されていない可能性があります。

問合せ/結果ペインの右マウスクリックメニュー

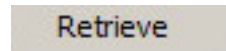
図 4. 右マウスクリックメニュー



- **Retrieve (検索)** - リモートホストからスタディを検索します。
- **Retrieve and Preprocess (検索と前処理)** - リモートホストから選択したスタディの検索と前処理を実行します。

シリーズペインの右マウスクリックメニュー

図 5. 右マウスクリックメニュー



- **Retrieve (検索)** - リモートホストからシリーズの検索を実行します。

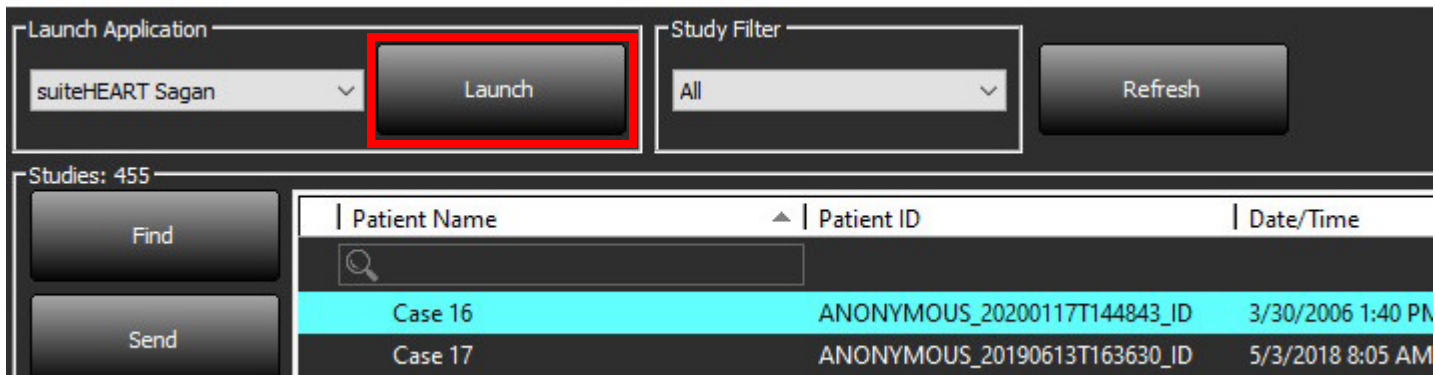
suiteDXT の使用

アプリケーションの起動

アプリケーションは、インストールマニュアルの手順に従うと追加できます。

1. メイン画面に移動します。
2. [Launch Application (アプリケーションの起動)] ドロップダウンメニューで、希望するアプリケーションを選択します。

図 1. アプリケーションの起動



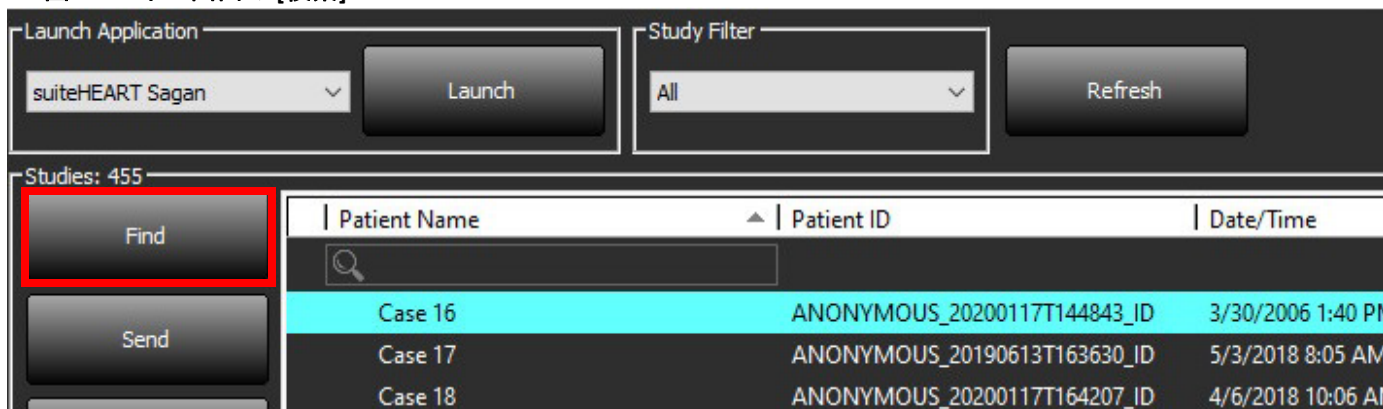
3. スタディリストからスタディを選択して以下のいずれかを行います。
 - [Launch (起動)] を選択します。
 - スタディをダブルクリックします。

リモートホストからスタディまたはシリーズを検索

リモートホストはすでにアクセス可能な状態に構成されていなくてはなりません。リモートホストの構成方法については、インストールマニュアルを参照してください。

1. メイン画面で [Find (検索)] を選択します。

図 2. メイン画面の [検索]



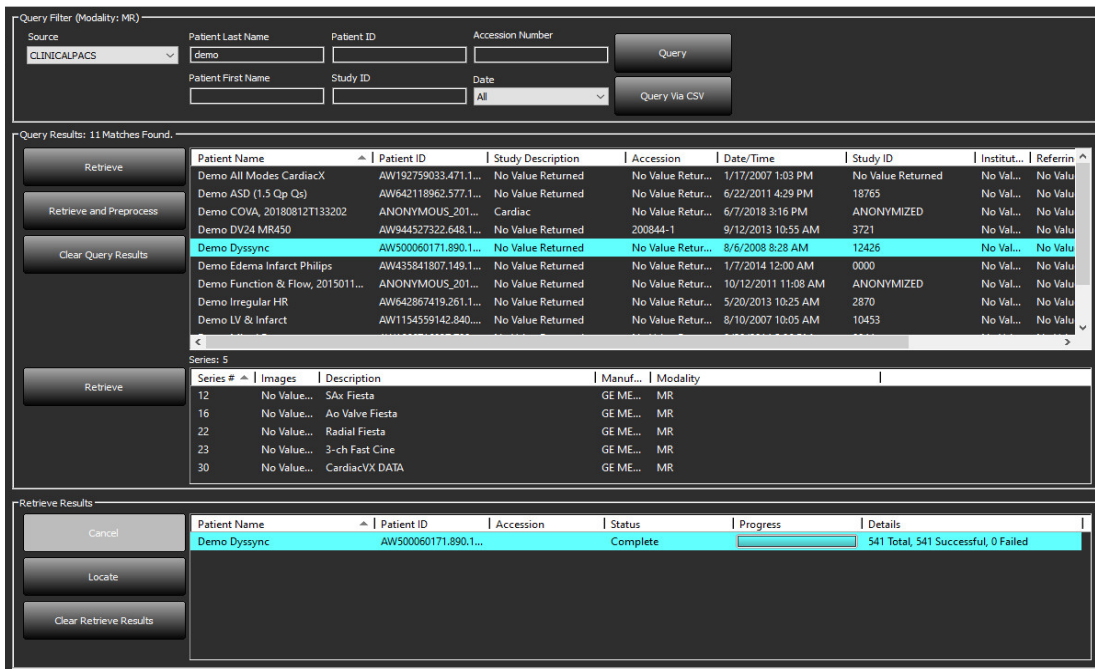
2. [Query/Retrieve (問合せ/検索)] ウィンドウの [Query Filter (問合せフィルタ)] エリアでスタディ情報基準を入力します。

以下のようなフィルタオプションがあります。

- Patient Last Name (患者の姓)
- Patient First Name (患者の名)
- Patient ID (患者 ID)
- Study ID (スタディ ID)
- Accession Number (登録番号)
- Date Range (日付範囲)

注：フィルター保存の選択は、NeoSoft から要請された場合にのみ利用できます。

図 3. 問合せ/検索ウィンドウ



3. [Query Source (問合せソース)] プルダウンメニューで、リモートホストを選択します。
4. 問合せまたはCSV を介した問合せを選択します。
5. CSV を介した問合せを行う場合、CSV ファイルを選択します。

入力した基準または CSV ファイルの基準に一致するスタディが、スタディリストに読み込まれます。
スタディをクリックすると、シリーズ情報リストにデータが読み込まれます。

注: CSV を介した問合せには、CSV ファイルを作成する必要があります。CSV ファイルを作成するためのテンプレートは、C:\ProgramData\NeoSoft, LLC\suiteDXT\Import\Import_Template.csv で入手できます。

CSV ファイルには、以下のフィールドが必要です:

Patient Last Name (患者の姓)	Patient First Name (患者の名)	Patient ID (患者 ID)	Study ID (スタディ ID)	スタディ日 年月日	Accession Number (登録番号)
-----------------------------	------------------------------	-----------------------	-----------------------	--------------	----------------------------

6. スタディを1つまたはグループで選択します。
7. スタディリストの下で [Retrieve (検索)] を選択するか、ポップアップメニューを右クリックして [Retrieve (検索)] を選択します。
8. [Retrieve and Preprocess (検索して前処理)] を選択して前処理を行います。
9. シリーズで検索するには、シリーズを選択してからシリーズリストの下で [Retrieve (検索)] をクリックします。検索の進捗状況は、ウィンドウ最下部の [Retrieve Results (検索結果)] セクションに表示されます。メイン画面の最下部で [No DICOM Network Activity (DICOM ネットワークアクティビティなし)] のステータスが [DICOM Network Active (DICOM ネットワーク有効)] に変わります。

注: スタディ全体が転送されないイベントの進捗状況インジケータは赤くなります。

以前のスタディの自動検索

リモートホストはすでにアクセス可能な状態に構成されていなくてはなりません。リモートホストの構成方法については、インストールマニュアルを参照してください。自動検索を構成することで、以前のスタディを PACS などのリモートホストから DXT データベースに自動検索することが可能になります。

以前のスタディ:を検索する場所の構成方法

注: リモート DICOM ホストは 1 つに限り構成が可能です。

1. メイン画面で [Configuration (構成)] を選択します。
2. [DICOM Destination (DICOM 宛先)] セクションで、PACS システムを強調表示し、[Edit (編集)] をクリックします。
3. PACS を確認します。
4. [Max Priors (以前の最大)] のプルダウンメニューで、検索したい以前のスタディの数を選択します。[Prior Study Description (以前のスタディの説明)] のテキストフィールドに用語を入力します。これらは、[Study Description (スタディの説明)] フィールドで、検索するスタディを識別するために使用される用語です。デフォルトの用語は CARDIAC^HEART です。
5. [Update (更新)] をクリックします。
6. [Apply and Close (適用して終了)] をクリックします。

DICOM Device Configuration

Description: PACS1 Enabled

AE Title: PACS1 Store to device

Address: 172.16.0.3 Query device

Port: 4006 Preprocessing

PACS Enable SSL

Max Priors: 1 Auto Retrieve Prior Studies

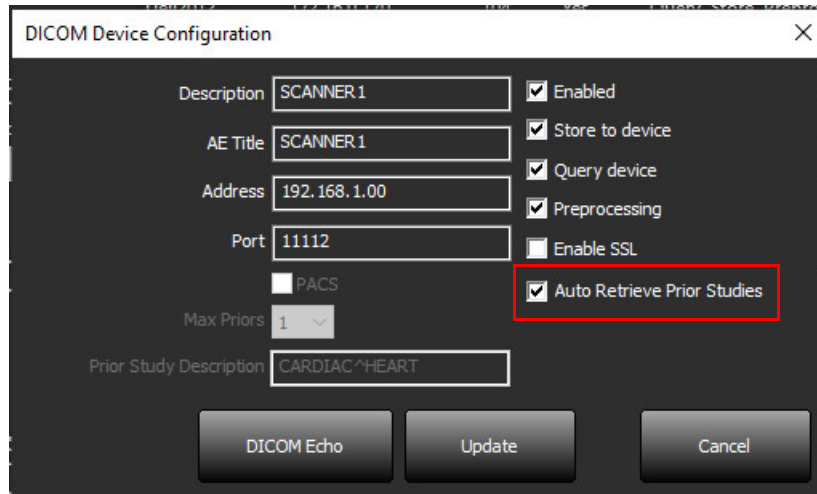
Prior Study Description: CARDIAC^HEART

DICOM Echo Update Cancel

スタディを検索する前に、生成するスタディを構成します:

1. メイン画面で [Configuration (構成)] を選択します。
2. [DICOM Destination (DICOM 宛先)] セクションで、宛先を強調表示して [Edit (編集)] をクリックし、それらの宛先から到着するスタディに基づき、スタディの検索前に自動生成するリモートホストを選択します。
3. [Auto Retrieve Prior Studies (以前のスタディを自動検索)] にチェックを入れます。
4. [Update (更新)] をクリックします。
5. [Apply and Close (適用して終了)] をクリックします。

注: プッシュ前処理が、その [DICOM Destination (DICOM 宛先)] のために有効化されると、suiteHEART データがない場合にスタディが前処理されます。



The image shows a 'DICOM Device Configuration' dialog box with the following fields and options:

- Description: SCANNER1
- AE Title: SCANNER1
- Address: 192.168.1.00
- Port: 11112
- Max Priors: 1
- Prior Study Description: CARDIAC^HEART
- Enabled:
- Store to device:
- Query device:
- Preprocessing:
- Enable SSL:
- Auto Retrieve Prior Studies: (highlighted with a red box)

Buttons at the bottom: DICOM Echo, Update, Cancel.

リモートホストにスタディを送信

リモートホストはすでにアクセス可能な状態に構成されていなくてはなりません。リモートホストの構成方法については、インストールマニュアルを参照してください。

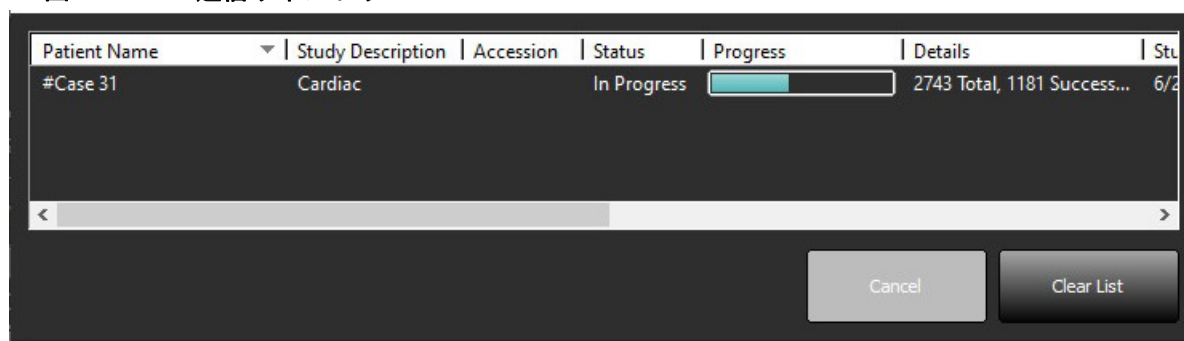
注： suiteDXT は JPEG ロスレス圧縮をサポートしますが、この形式のサブセットはサポートされていません。

1. 送信するには、スタディをハイライトします。
2. [Send (送信)] を選択するか、右クリックしてポップアップメニューから [Send Study (スタディの送信)] を選びます。
3. 送信先を選択します。
4. ポップアップウィンドウで [Send (送信)] を選択します。

[DICOM Send (DICOM 送信)] ウィンドウが表示され、転送の進捗状況を示します。このウィンドウは右上隅の X を使用すると閉じることができます。その間も転送は背景で実行されます。

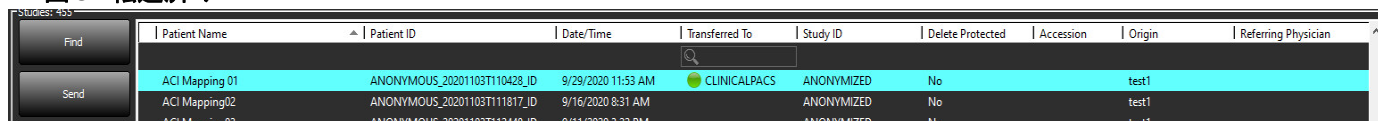
[DICOM Send (DICOM 送信)] ウィンドウを閉じた後に進捗状況をチェックするには、[Send (送信)] を選択してから [Status (ステータス)] を選択します。

図 4. DICOM 送信ウィンドウ



5. 転送に成功したスタディは、メインスタディリストの [Transferred To (転送済み)] 列にリモートホストが表示されます。

図 5. 転送済み



Patient Name	Patient ID	Date/Time	Transferred To	Study ID	Delete Protected	Accession	Origin	Referring Physician
ACI Mapping01	ANONYMOUS_20201103T110428_ID	9/29/2020 11:53 AM	CLINICALPACS	ANONYMIZED	No	test1		
ACI Mapping02	ANONYMOUS_20201103T111817_ID	9/16/2020 8:31 AM		ANONYMIZED	No	test1		
ACI Mapping03	ANONYMOUS_20201103T112448_ID	9/11/2020 3:22 PM		ANONYMIZED	No	test1		

リモートホストにシリーズを送信

1. スタディをハイライトします。
2. 必要なシリーズをハイライトします。
3. [Send (送信)] を選択するか、右クリックしてポップアップメニューから [Send (送信)] を選びます。
4. 送信先を選択します。
5. ポップアップウィンドウで [Send (送信)] を選択します。
6. 転送に成功したシリーズは、シリーズペインの [Transferred To (転送済み)] 列に [Remote Host (リモートホスト)] と表示されます。

図 6. シリーズ転送ペイン

Series #	Images	Description	Modality	Manufacturer	Transferred To	Transferred Date
101	50	Survey	MR	Philips Healthcare	CLINICALPACS	10/8/2020 12:52:32 PM
201	30	SSFP_AX	MR	Philips Healthcare	CLINICALPACS	10/8/2020 12:52:32 PM
301	30	BB_SSh_BH	MR	Philips Healthcare	CLINICALPACS	10/8/2020 12:52:32 PM

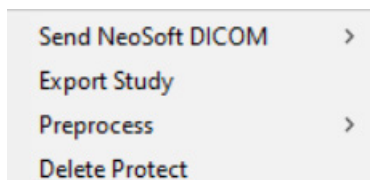
スタディペインのインジケータ

インジケータ	ステータス
水色の円	画像の転送は未完了、または画像は複数のリモートホストに転送済み。
緑色の円	スタディのすべての画像が単一のリモートホストに転送済み。

NeoSoft DICOM ファイルの送信

ソフトウェアによって作成されたファイルは別個にネットワーク送信されます。

1. スタディをハイライトします。
2. 右クリックして [Send NeoSoft DICOM (NeoSoft DICOM の送信)] を選択します。
3. DICOM の送信先を選択します。



スタディのインポート

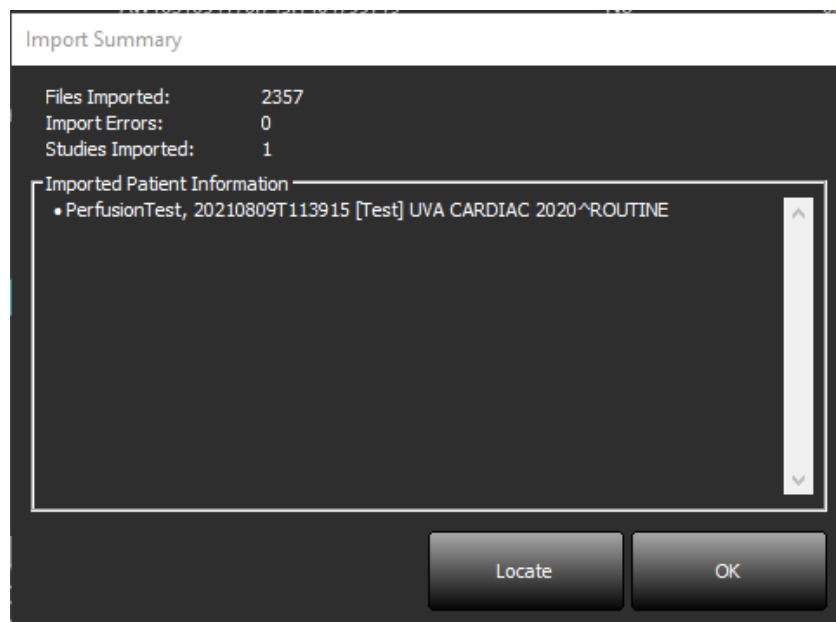
DICOM データを含むスタディはローカルファイルシステム、マッピングされたドライブ、CD、DVD、USB からインポートできます (圧縮されたフォルダも含まれます)。インポートしたい DICOM データが含まれているメディアを挿入した後、以下の手順に従ってください。

注: suiteDXT は JPEG ロスレス圧縮をサポートしますが、この形式のサブセットはサポートされていません。

1. メイン画面で [Import (インポート)] を選択します。
2. DICOM データが含まれている場所まで移動します。
3. [Select (選択)] をクリックします。

[Import File Progress (ファイルのインポート進捗状況)] ウィンドウに DICOM ファイルのインポートのステータスが表示されます。[Import Summary (インポートの要約)] に検出されたファイルの合計数、インポートされたファイル、スタディカウント、スタディのインポート済み情報が表示されます。

新しくインポートされたスタディが suiteDXT のメイン画面のスタディリストに追加されます。フォルダが選択された場合、スタディはフォルダにインポートされます。



提供されたデータの例を suiteDXT にインポートできます。

注：スタディのインポートが完了しない場合は、[Import Summary (インポートの要約)] 画面で [Retry (再試行)] をクリックしてください。

スタディのエクスポート

解析済みのスタディは、メインスタディディレクトリから .zip ファイルとしてエクスポートできます。

1. メイン画面の [Configuration (構成)] をクリックしてファイル名をカスタマイズします。
2. [エクスポートするファイル名のパターン] のセクションで、図 7で示されるように、必要なファイル属性を選択します。
3. [Apply and Close (適用して終了)] をクリックします。
4. スタディをハイライトするか、Ctrl+Shift を使用してスタディのグループを選択します。
5. 右クリックして [Export (エクスポート)] を選択します。
6. 適切なエクスポート先を選択します。
7. [Save (保存)] を選択します。


図 7. エクスポートするファイル名のパターン



検索の実行

並べ替えの有無に関わらず、各列を自動的に検索できます。検索では大文字と小文字を区別せず、結果が自動的にリストの最上部に表示されます。

Patient Name	Patient ID	Date/Time	Transferred To	Study ID	Delete Protected	Accession	Origin
Case							
SH Case 10	AW2091044406.251.1412004870	6/22/2011 4:29 PM		18765	No		tritoncrc
SH Case 14, 20140929T165736	ANONYMOUS_20140929T165736_ID	8/10/2007 10:05 AM		ANONYMIZED	No		tritoncrc

- 最初の結果を取得した後、キーボードで ENTER キーを押すか、検索フィールドで矢印を押すと、次の結果に進めます。
- キーボードで ENTER と SHIFT キーを同時に押すと、前の結果が選択されます。
- 結果の最後まで到達した際にキーボードで SHIFT を押すかどうかに関わらず ENTER を押すと、検索結果の最初に戻ります。
-  を押すと、検索結果がクリアされます。

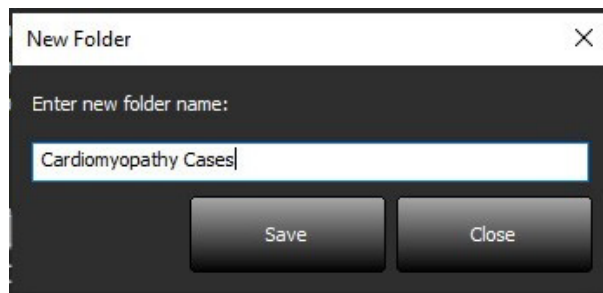
注：検索でフォルダをスタディリストに含めるには、フォルダを展開する必要があります。フォルダを右クリックして [Expand All (すべて展開)] を選択します。

フォルダの作成

スタディリストレベルでスタディを整理するためにフォルダを作成できます。それらは、スタディリストの上部でグループ化されます。

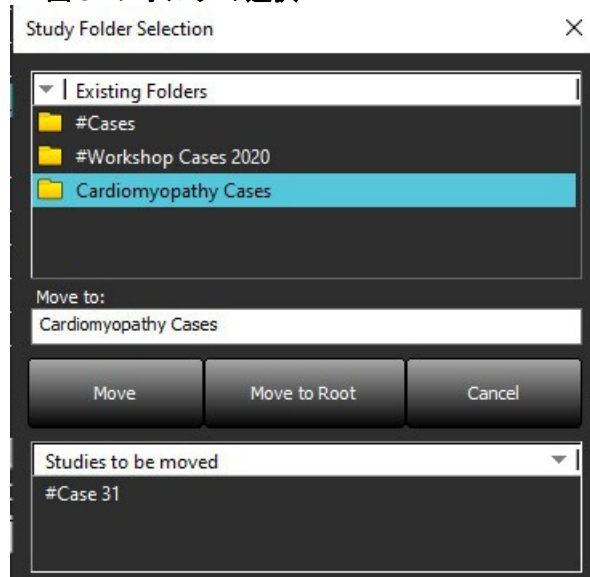
1. [New Folder (新しいフォルダ)] をクリックします。
2. フォルダ名を入力して、[Save (保存)] をクリックします。

これでフォルダがスタディリストに表示されます。



3. スタディを右クリックして [Move to Folder (フォルダに移動)] を選択し、スタディをフォルダに移します。
4. フォルダのダイアログボックスが開いたら、スタディの移動先の正しいフォルダを選択します。

図 8. フォルダの選択



5. スタディをクリックして [Move to Folder (フォルダに移動)] を選択し、スタディをメインディレクトリに戻します。
6. [Move to Root (ルートに移動)] をクリックします。

スタディの匿名化



注意: スタディを匿名化しても、他の後処理ソフトウェアで作成された画像の患者データは削除されません。



注意: 匿名化されたスタディは、NeoSoft, LLC のアプリケーションのみで使用してください。

1. メイン画面で、匿名化したいスタディを選択します。
2. [Anonymize (匿名化)] を選択します。
3. 匿名化フィールドに入力します (図 9)。
4. NeoSoft セカンダリキャプチャシリーズを含めない場合は、オプションの選択を解除します。
5. [Anonymize (匿名化)] をクリックします。

図 9. 匿名化スタディ

進捗状況インジケータが表示されます。新しく匿名化されたスタディがスタディリストに表示されます。

6. [Anonymize Study (スタディの匿名化)] ポップアップで [OK] をクリックします。
注：匿名化機能は、NeoSoft のサポート目的でご利用いただけます。

削除保護

スタディの削除保護を設定するには、スタディを右クリックして [Delete Protect (削除保護)] を選択します。インジケータ列に、保護されているスタディの場合は [Yes (はい)]、保護されていないスタディの場合は [No (いいえ)] と表示されます (図 10)。削除保護をオフにするには、右クリックして [Remove Delete Protection (削除保護を解除)] を選択してください。

図 10. 削除保護列のインジケータ

Patient Name	Patient ID	Date/Time	Transferred To	Delete Protected	Study ID
SH Case 21	AW712995506.906.1442511336	9/12/2013 10:55 AM		Yes	3721
SH Case 22	AW1908138422.466.1442956310	12/16/2013 10:28 AM		Yes	MCARD
SH Case 23, 20150819T112311	ANONYMOUS_20150819T112311_ID	1/13/2014 12:00 AM	test1	No	ANONYMIZED
SH Case 24, 20151028T101232	ANONYMOUS_20151028T101232_ID	12/16/2014 11:28 AM		No	ANONYMIZED

スタディの削除



注意： ファイルシステムからデータを削除すると (現在開いているスタディのファイルも含まれます)、解析/画像データが失われる可能性があります。

メイン画面で、削除したいスタディを選択し、[Delete (削除)] を選択するか、右クリックしてポップアップメニューから [Delete (削除)] を選択します。「SHIFT+クリック」または「Ctrl+クリック」を使用すると、リストから削除したいスタディを複数選択できます。

シリーズの削除

メイン画面でスタディを選択してからシリーズを選び、[Delete (削除)] を選択します。「SHIFT + クリック」または「Ctrl + クリック」を使用すると、リストから複数のシリーズを選択できます。

注：シリーズの削除は、解析を始める前に行うようお勧めします。

セカンダリキャプチャシリーズの削除

NeoSoft, LLC を製造元として認識しているセカンダリキャプチャシリーズは、削除できます。



注意: suiteHEART データシリーズを削除すると、あらゆる解析結果が削除されます。

1. スタディを選択し、suiteHEART DATA シリーズを見つけます。
2. シリーズ番号または + アイコンをクリックして [Series Details (シリーズの詳細)] ウィンドウを開きます。

図 11. シリーズの選択

Series #	Images	Description	Start Time	Manufacturer	Transferred To	Transferred Date/Time	Modality
3200	9	[Loc: 63.99] + C SMARTI Map FIESTA	10:50 AM	GE MEDICAL SYSTEMS			MR
3210	9	[Loc: 77.54] + C SMARTI Map FIESTA	10:50 AM	GE MEDICAL SYSTEMS			MR
3220	9	[Loc: 91.09] + C SMARTI Map FIESTA	10:50 AM	GE MEDICAL SYSTEMS			MR
3500	14	MAG:2D PSMDE	10:55 AM	GE MEDICAL SYSTEMS			MR
3600	3	MAG:2D PSMDE	11:02 AM	GE MEDICAL SYSTEMS			MR
3700	3	MAG:2D PSMDE	11:03 AM	GE MEDICAL SYSTEMS			MR
3701	1	CAS_SCPT_SERIES AUTO_T1_MOLLI_1		NeoSoft LLC			MR
3702	1	CAS_SCPT_SERIES AUTO_T1_SMART_1		NeoSoft LLC			MR
3703	1	CAS_SCPT_SERIES AUTO_T1_SMART_2		NeoSoft LLC			MR
+ 3713	2	suiteHEART DATA		NeoSoft LLC			MR
3716	20	Sx Fiesta		NeoSoft LLC			MR
3717	1	PS:2D PSMDE		NeoSoft LLC			MR

3. 適切な行を選択して、[Delete (削除)] をクリックします。閉じるには、X (ウィンドウの右上隅) をクリックするか、[Close (閉じる)] をクリックしてください。

図 12. シリーズの詳細

Series Details ×

Description: [suiteHEART DATA] Number: [3713] Modality: [MR] Manufacturer: [NeoSoft LLC]

SOP Instance UID	Date/Time	Number
1.2.826.0.1.3680043.9.1400.2.1653576577.400	5/26/2022 9:49 AM	1
1.2.826.0.1.3680043.9.1400.5.1653576676.605	5/26/2022 9:51 AM	2

suiteDXT の概要

メイン画面で [About (概要)] を選択すると、suiteDXT のソフトウェアバージョンが表示されます。

[Instructions for Use (使用説明書)] リンクをクリックして、使用説明書 (IFU) を起動します。

[DICOM Conformance Statement (DICOM 適合声明書)] リンクをクリックして、DICOM 適合声明書を起動します。

「Regulatory Information (規制情報)」のリンクをクリックして、規制情報を起動します。

注：これらの文書を開くには、PDF リーダーが必要です。

注：[Archive log files for Support (サポート用ログファイルのアーカイブ)] をクリックすると、サービス部門がトラブルシューティングで使用するファイルを作成できます。

図 13. 概要画面



スタディの前処理

注：このセクションは、NeoSoft CAKE™ アプリケーションには適用されません。

スタディの前処理機能は、suiteHEART® ソフトウェアアプリケーションでのみ利用できます。これで、機能、血流、心筋評価、T1 マッピングおよび T2 マッピングの前処理を行うことができます。前処理は、Virtual Fellow® 機能と組み合わせて使用できます。

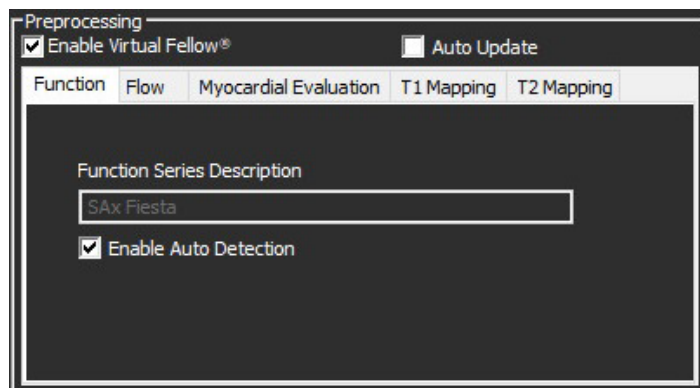
注：ハードウェアが最低システム要件を満たさない場合、前処理は無効になります。

前処理の構成

1. メイン画面で [Configuration (構成)] を選択します。
2. この前処理セクションで、それぞれのアプリケーションのタイプの [Enable Auto Detection (自動検出を有効にする)] にチェックを入れます。

注：シリーズ名を定義すると、自動検出を無効にすることができます。以下の「シリーズの説明を定義する」を参照してください。

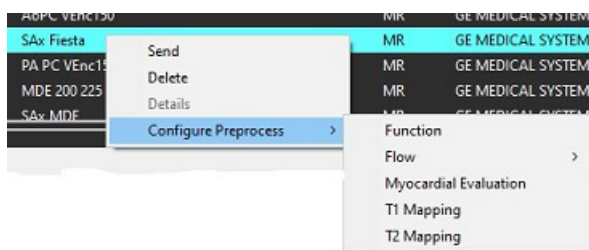
3. T1 マッピングおよび T2 マッピングでは、時間シリーズかマップのシリーズタイプを選択します。
4. [Enable Virtual Fellow® (Virtual Fellow® を有効にする)] をチェックして画像を最適化します。
5. バックグラウンドでの処理されているスタディの起動を有効にするには、[Auto Update (自動更新)] にチェックを入れます。
6. [Apply and Close (適用して終了)] をクリックします。



シリーズの説明を定義する

1. メイン画面でスタディペインからスタディを選択します。
2. シリーズペインからシリーズを選択します。
3. シリーズ名を右クリックし、そのシリーズに適した解析タイプを選択します。

シリーズ名は、[Preprocessing (前処理)] セクションに自動的に入力されます。



4. 他のすべてのシリーズタイプでも繰り返します。

前処理の使用

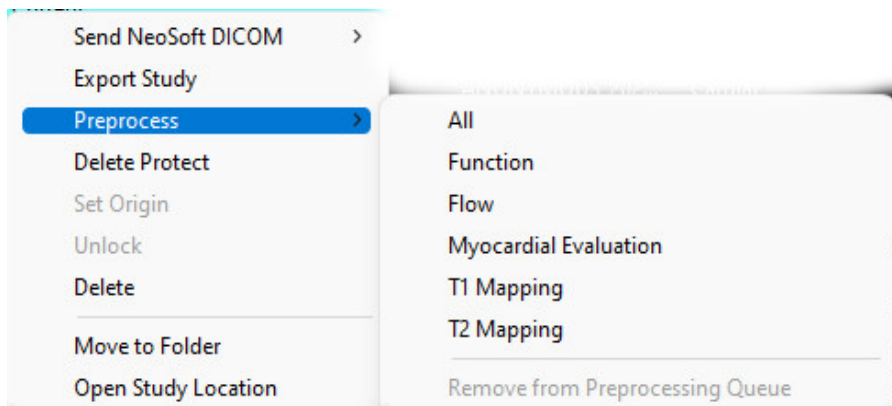
前処理は、別の DICOM ノードから suiteDXT に直接送信/プッシュされている心臓 MRI スタディで実行できます。

注：自動更新が有効である場合、バックグラウンドで処理の実行中にもスタディを起動することができます。

前処理は以下の手順で開始することができます。

スタディペイン

1. スタディペインから患者を選択します。
2. メニューで [Preprocess (前処理)] を右クリックして選択します。

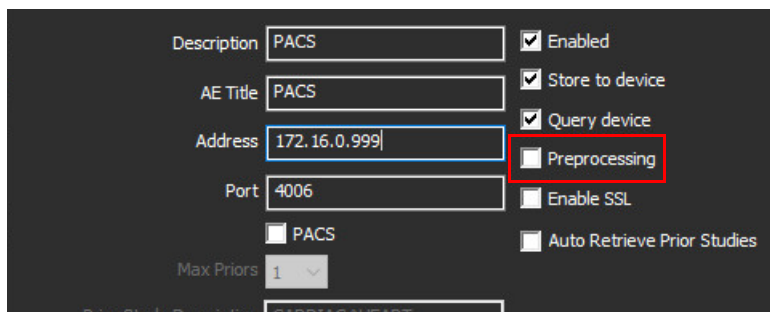


問合せ / 検索ウィンドウ

「はじめに」と「suiteDXT の使用」の問合せ/検索セクションを参照してください。

suiteDXT に送信される DICOM ノード

1. メイン画面で [Configuration (構成)] を選択します。
2. [DICOM Destination (DICOM 宛先)] セクションで、[DICOM node (DICOM ノード)] を選択し、[Edit (編集)] をクリックします。
3. [Preprocessing (前処理)] にチェックを入れます。
4. [Update (更新)] をクリックします。
5. [Apply and Close (適用して終了)] をクリックします。



[Preprocessing (前処理)] にチェックが入っており、前処理が構成されている場合は、[Preprocessing: ON (前処理: オン)] インジケータがステータスパネルに表示されます。



スタディペインのインジケータ

インジケータ	ステータス
水色の円	スタディは前処理中です。
紺色の円	スタディはキューに入っています。
緑色の円	前処理は完了しました。スタディが開かれるまでインジケータはそのままになります。
赤い円	前処理に失敗しました。NeoSoft にメール (service@neosoftmedical.com) で連絡してください

The screenshot shows a table with columns: Patient Name, Patient ID, Date/Time, Transferred To, Delete Protected, Study ID, and Access. The row for 'SH Case 38' is highlighted in cyan, and a red box is drawn around the 'SH Case 38' text in the Patient Name column.

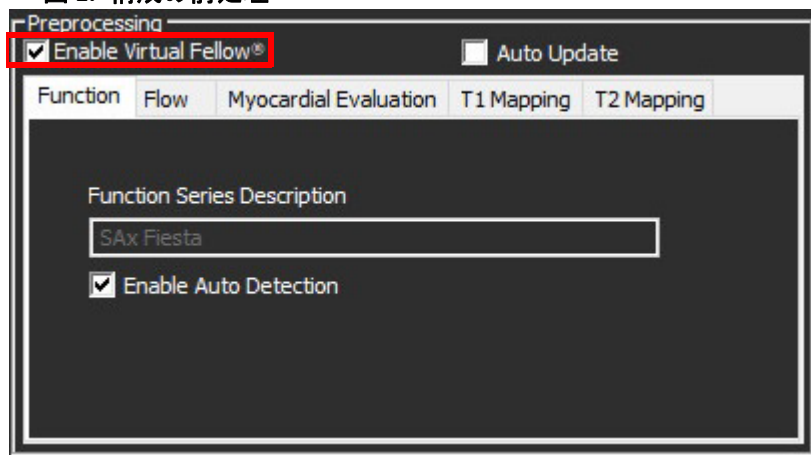
Find	Patient Name	Patient ID	Date/Time	Transferred To	Delete Protected	Study ID	Access
Send	SH Case 31, 20161027T111015	ANONYMOUS_20161027T111015_JD	4/5/2016 2:46 PM	No	No	ANONYMIZED	
Import	SH Case 33, 20171006T105644	ANONYMOUS_20171006T105644_JD	7/6/2017 10:15 AM	No	No	ANONYMIZED	
	SH Case 37, 20190518T140428	ANONYMOUS_20190518T140428_JD	6/10/2016 11:52 AM	No	No	ANONYMIZED	
	SH Case 38	ANONYMOUS_20210126T145814_JD	8/11/2020 8:36 AM	No	No	ANONYMIZED	
	SH Case 39	ANONYMOUS_20210203T144600_JD	6/21/2017 1:34 PM	No	No	ANONYMIZED	
	SH Case 40	ANONYMOUS_20210203T144600_JD	1/20/2021 12:40 PM	No	No	ANONYMIZED	

Virtual Fellow®

Virtual Fellow® のオン/オフ

1. suiteDXT のメイン画面で [Configuration (構成)] をクリックします。
2. 前処理セクションで、[Enable Virtual Fellow® (Virtual Fellow® を有効にする)] をチェックして画像を最適化します。
3. [Apply and Close (適用して終了)] をクリックします。

図 1. 構成の前処理



画像プレビューウィンドウ



警告: 画像は診断や治療には適していません。

suiteDXT のメイン画面で、プレビューウィンドウの表示/非表示を切り替えられます。

注: 選択した研究に suiteHEART Virtual Fellow[®]、CAS Cine、および/またはCAS レポートシリーズが含まれている場合、これらのシリーズは図 2 に示すように、プレビューウィンドウに自動的に表示されます。

図 2.

The screenshot displays the suiteDXT software interface. On the left, there is a 'Launch Application' section with a dropdown menu set to 'suiteHEART' and a 'Launch' button. Below this is a 'Study Filter' dropdown set to 'All' and a 'Refresh' button. The main area is divided into two tables. The top table, titled 'Studies: 227', lists various cases with columns for Patient Name, Patient ID, Study Description, and Accession. The row for 'Case 21 Current' is highlighted in cyan. The bottom table, titled 'Series: 49', lists series with columns for Series #, Images, Description, Start Time, and Manufacturer. The row for series 3416 (SAX Fiesta) is highlighted in cyan. A red box highlights the 'Delete' button in the 'Series' table. On the right side, a large preview window displays a grid of cardiac MRI images. A blue banner with the text 'プレビューウィンドウ' (Preview Window) is overlaid on the images. Below the images, another blue banner with the text 'シネコントロール' (Cine Control) is visible. At the bottom of the preview window, there are navigation controls including arrows and a frame counter showing '4/20' and '20 FPS'. A disclaimer at the top right of the preview window reads: 'DISCLAIMER: Images are not suitable for diagnosis and/or treatment.'

Patient Name	Patient ID	Study Description	Accession
Case 13	ANONYMOUS_202...	Cardiac	
Case 14	ANONYMOUS_202...	Cardiac	
Case 16	ANONYMOUS_202...	Fx ARVD MDE	
Case 18	ANONYMOUS_202...	Cardiac	
Case 19	ANONYMOUS_202...	Cardiac	
Case 20	ANONYMOUS_202...	CardiacFx MDE	
Case 21 Current	2222	Cardiac	
Case 21 Prior	2222	Cardiac	
Case 22	ANONYMOUS_202...	Cardiac	
Case 24	ANONYMOUS_202...	MRFP SP	
Case 25	ANONYMOUS_201...	Cardiac	
Case 26	ANONYMOUS_202...	Cardiac	
Case 29	ANONYMOUS_201...	MR HEART FOR FUNCTI...	
Case 33	ANONYMOUS_201...	Cardiac	

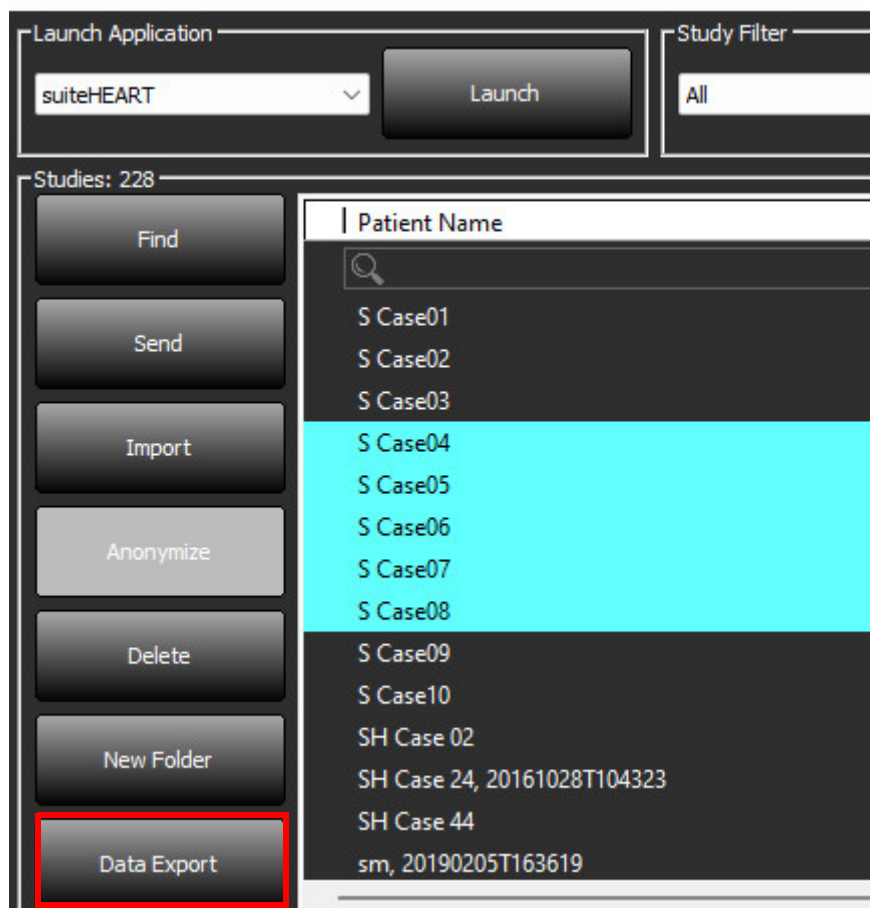
Series #	Images	Description	Start Ti...	Manufacturer
3400	3	MAG:2D PSMDE	5:15 PM	GE MEDICAL SYSTEMS
3401	1	CAS_SCPT_SERIES AUTO_T1_SMART_1		NeoSoft LLC
3402	1	CAS_SCPT_SERIES AUTO_T1_SMART_2		NeoSoft LLC
3412	2	suiteHEART DATA		NeoSoft LLC
3415	1	CAS_SCPT_SERIES AUTO_FUNCTION_LAX		NeoSoft LLC
3416	20	SAX Fiesta		NeoSoft LLC
3417	1	PS:2D PSMDE		NeoSoft LLC
3418	1	MAG:2D PSMDE		NeoSoft LLC
3419	30	MoCo FGRE Time Course + MotionCorrection		NeoSoft LLC
3420	30	FGRE Time Course + MotionCorrection		NeoSoft LLC

データエクスポート

重要: ユーザーは、あらゆる関心領域 (ROI) の正確かつ完全な配置 (および適正な割り当て) に関する責任を負っています。この中には自動セグメント化アルゴリズムによって生成または修正されたものも含まれます。ソフトウェアで生成される定量値は、これらの関心領域の正確かつ完全な配置 (および適正な割り当て) に左右されます。

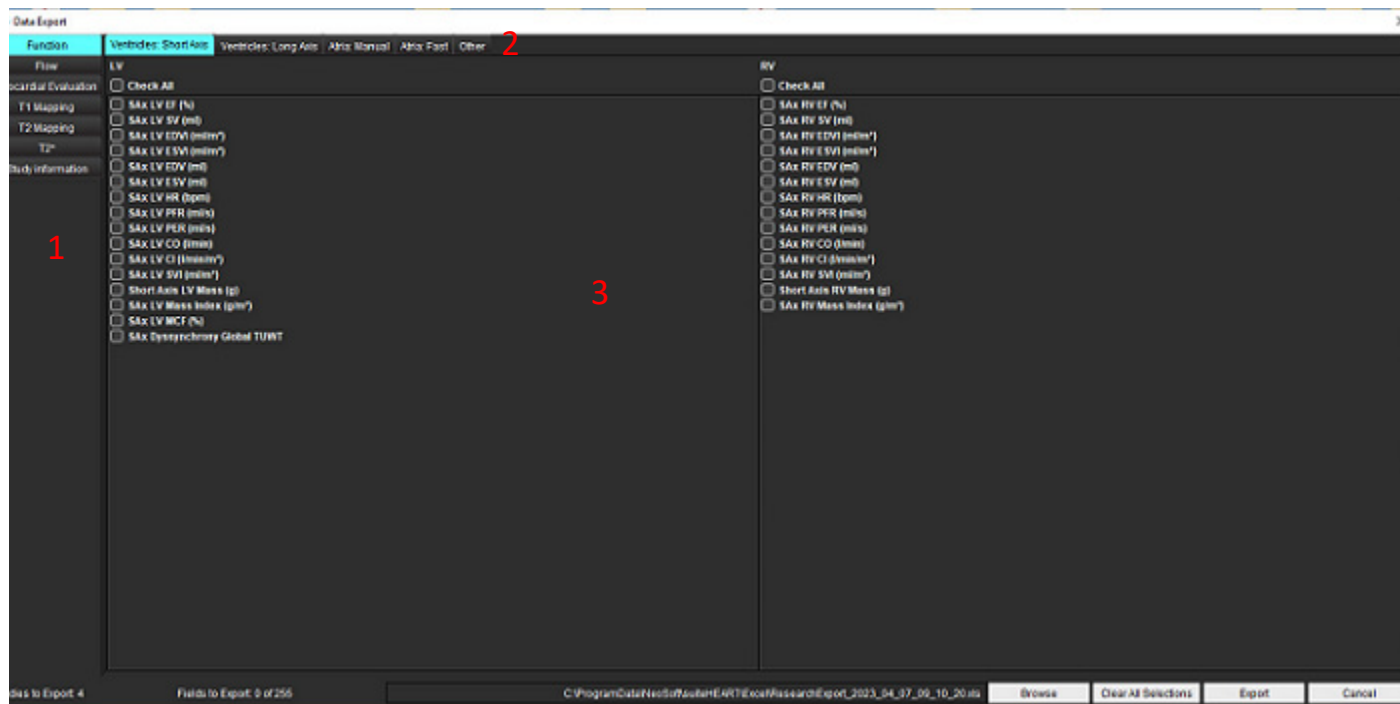
1. DXTスタディペインから、研究または研究のグループを選択します。
2. データエクスポートを選択します。

図 1. suiteDXTインターフェイスからのデータエクスポート



3. データエクスポートインターフェイスから、希望する適切な分析タイプの結果値を選択します。選択した項目は、次回のエクスポートのために保持されます。

図 2. データエクスポート



1. 解析モード
2. 解析タイプ
3. 結果値選択

注：255フィールドまでエクスポートが可能です。

4. **Browse**を選択し、移動先とファイル名を選択します。
5. **Clear All Selections**を選択して、結果選択をリセットします。
6. **Export**を選択して、エクセルシートを生成します。
7. **Cancel**を選択してインターフェイスを終了します。

サービスとサポート

DICOM ネットワーク機能不全

検索でスタディを転送できない場合は、ファイアウォールが転送を妨げていないか確認してください。ファイアウォールに問題がない場合は、suiteDXT がリモートホストで DICOM エコーを実行でき、リモートホストが suiteDXT で DICOM エコーを実行できるかチェックします。

1. メイン画面で [Configuration (構成)] を選択します。
2. [DICOM Configuration (DICOM 構成)] セクションで、検索を試みたりリモートホストを選択し、[Edit (編集)] を選択します。
3. 以下のチェックボックスを選択します: [Enable (有効)]、[Store to device (デバイスに格納)]、[Query device (デバイスの問合せ)]。
4. DICOM 転送先の IP アドレス、ポート、AE タイトルが正しいことを確認します。

図 1. DICOM 構成ウィンドウ

The screenshot shows the 'DICOM Device Configuration' dialog box. It has a title bar with a close button (X). The main area contains the following fields and options:

- Description: PACS
- AE Title: PACS
- Address: 172.16.0.999 (highlighted with a red box)
- Port: 4006
- Max Priors: 1 (dropdown)
- Prior Study Description: CARDIAC^HEART
- Enabled:
- Store to device:
- Query device:
- Preprocessing:
- Enable SSL:
- Auto Retrieve Prior Studies:

At the bottom, there are three buttons: 'DICOM Echo' (highlighted with a red box), 'Update', and 'Cancel'.

5. [DICOM Echo (DICOM エコー)] をクリックします。
6. ネットワークの設定をチェックし、選択したポートが開いており、suiteDXT ホストでアクセスできることを確認します。
7. スタディを再び検索します。

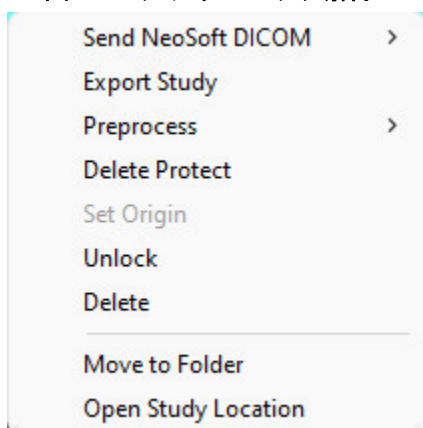
上記の手順を行っても再び検索に失敗する場合は、ネットワーク管理者に連絡してください。

スタディ起動エラー

スタディを起動しようとした際に [The following studies are locked and will not be loaded in the launch (以下のスタディはロックされており、起動で読み込むことはできません)] というメッセージが表示されたら、以下を行ってください。

1. suiteDXT スタディディレクトリに移動します。
2. エラーメッセージが出たスタディを右クリックします。
3. [Unlock (ロック解除)] を選択します。

図 2. スタディのロック解除



お問い合わせ

suiteDXT のインストールまたは使用中に問題が発生した場合は、NeoSoft, LLC サービスの service@NeoSoftmedical.com へお問い合わせください。